

里親等委託を進めるうえでの課題解決には、**市町村の関与**と**里親ショート**の**充実**が効果があります。



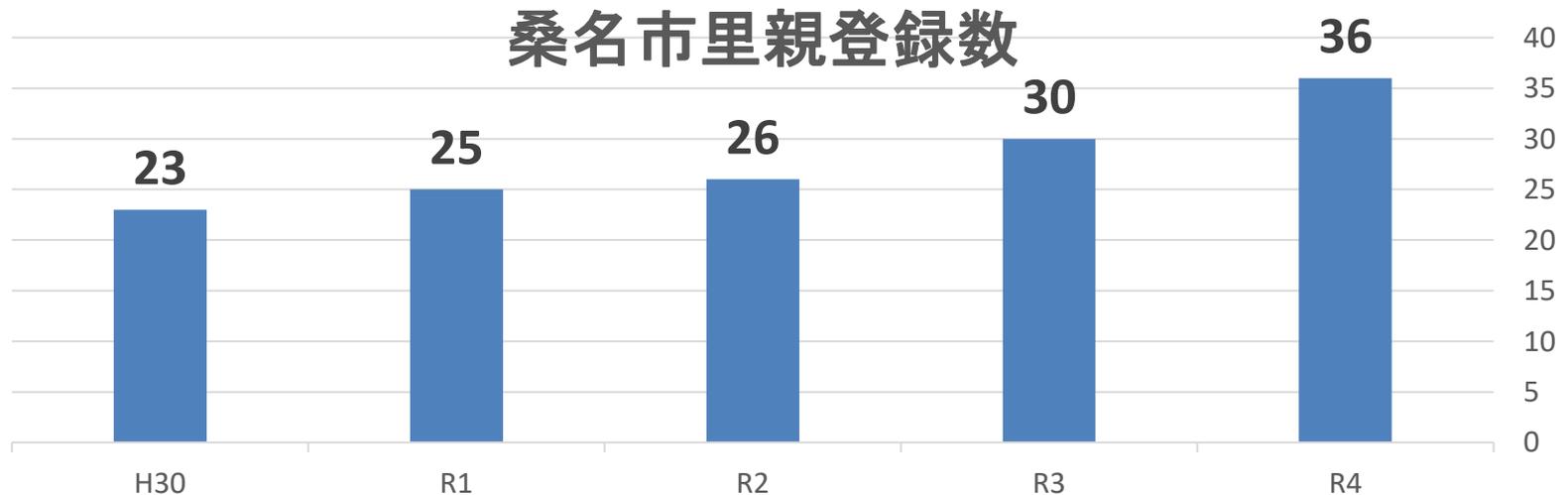
桑名市子ども総合センター
牧戸 貞

①登録里親確保の問題

- ・里親制度の社会的認知度が低く、新規委託可能な登録里親が少ない。

桑名市の取り組み①

市子ども総合センターが、里親会、フオスタリング機関と協働して、自治会・子育てサークルなど、小規模な集まりでの、膝を交えた説明会開催



②登録里親の養育技術・経験にばらつきが存在する問題

- ・里親の養育技術及び経験にばらつきがあり、こどもの状態像によっては委託先の里親が限られる場合がある。

桑名市の取り組み②

- いきなり長期の委託は里親も児相も不安がある場合も。
- 短期間の**ショートステイ**から経験を積んで頂く。
- ショート委託**中も**市子ども総合センター**、**里親支援員**、**フォスタリング機関**で構成されるくわな里親支援ネットワークが支援



③こどもと里親のマッチングの問題

・里親の希望する条件（年齢、性別、養子縁組可能性等）に合致しない。

桑名市の取り組み③

●短期間の**ショートステイ**から、希望していない条件のこどもについても、経験を積んで頂き、委託可能なこどもの条件を拡げていただく。

●**市主催**の里親連絡会の開催、里親希望者面談時の同席などで、**市と里親**が顔の見える関係を築くことで希望条件外児童の相談も。



見えてきた課題

○共働き里親が増え、保育園に通っていない未就学児は、里親の休日しか預かれない。

→ 一時保育、誰でも通園制度の充実

④こどもが抱える問題の複雑化に伴う里親家庭への継続的な支援の必要性

- ・発達障害等こどもが抱える問題の複雑化に里親が対応するための養育技術の向上が必要。

桑名市の取り組み④

- 市内の里親に他市町村の里子が委託された場合も、**子ども総合センター**が、児相、フォスタリング機関等と合同で訪問するなどして支援。（**市町村**は児童発達支援事業など療育の利用など発達障害児の支援を行っている。）
- 家出少年少女など、従来であれば児相の一時保護で処遇していたこどもも**里親ショート**で支援。（一時保護はスマホが使えないので行きたがらない。）



⑤実親の同意の問題

- ・里親等委託に対する実親の同意を得ることが難しい。

桑名市の取り組み⑤

●**市子ども総合センター**は、こどもが児相による一時保護（措置入所・里親委託）になる前から、実親と関係を構築。（産前産後の母子保健担当による支援や児童福祉担当による物資の支援などにより関係を築いている。）

●里親委託中、委託後の家庭復帰プランを児相が示し、実親と関係が築けている**市町村**が支援することで、実親の「こどもを取られる感」が軽減するのでは。

●在宅支援時から**里親ショート**をちょいちょい利用することで、「里親＝実親からこどもを奪う人」から「社会資源のひとつ＝実親を助けてくれる人」であるとの認識の転換にならないか。



(+a) サポートプランの問題

- ・児童福祉法の改正により、市町村はサポートプランを個別に作成する必要があるが、社会資源が乏しいと効果的なプランにならない。

桑名市の取り組み⑥

- より良いプランが作成できるよう、より良い支援が提供できるよう社会資源の充実に努めている。
- その中でも、**里親ショート**は、こどもの居場所、産前産後ケア、精神科医療との連携と併せて、効果的な支援のひとつである。
- 要保護・要支援世帯は利用料を無料にしたこともあり、里親ショートの利用は増えている。



まとめ

○里親委託等を進めるうえでの課題を解決するための手段のひとつとして、**市町村での里親ショート**の**充実**が考えられる。

○**里親ショート**は**市町村**の事業でもあるため、**市町村**の関与は必須。また、里親の開拓にも**市町村**が関与することで効果がみられる。

○**里親ショート**などの“新たな社会的養育”を充実させることで、そもそも里親委託などの代替養育を利用せざるを得ないこどもが減少するではないか。